

地域情報

地域のイベント(非営利)を無料で掲載します。ご希望の方は、内容・連絡先を明記し、右記の宛先へお寄せください。

さわやかちば県民プラザ ☎7140-8600

月曜休所

●新春のコンサート 1/19(日) 14:00~16:00、柏の葉吹奏楽団、無料、申込不要

●古くなった雑誌の無料配布

2/1(土)~11(火・祝)9:00~なくなり次第終了、2階特設コーナー、ひとり5冊まで

●ものづくりワークショップ

2/9(日)10:00~13:00、草のキーストラップなど、400~1000円(材料費)、当日受付

●県立柏の葉公園 事務所 ☎7134-2015

●ストレッチング講習会 1/24(金)・2/14(金)14:00~15:30、40人、210円、☎受付中、先着順、体育館 ☎7134-3500

●講話会「日本文化にまつわる講話会」

2/19(水)13:30~15:30、10人、1100円、要申込、☎1/17~受付、先着順、茶室 ☎7134-2017

●緑の講習会

☎2/5~受付、事務所、先着順

●園内サクラツアー 3/17(月)13:30~15:30、15人、110円、★春の寄せ植え 3/19(水)13:30~15:30、24人、3000円

●柏の葉ウォーキングクラブ 公園センター

前9:00当日受付、☎川口 ☎090-8499-5454

掲載希望・紙面の感想は下記へ

〒270-0103
流山市美原4-1212-4
ASA江戸川台・運河店
グッド・モーニング編集室
TEL.7156-2539
FAX.7154-0169



メール

「ASA江戸川台」で検索

情報紙は、インターネットではカラーで見られます。



生涯大学校

北部公民館隣、☎7152-1181

●子ども食堂 1/18(土)12:00~食事提供、子ども無料、大人200円、申込不要(先着65食)、10:30~学習や遊びの場あり

●江戸川台福祉会館 ☎7154-3026

●体調改善「コンディショニング・ストレッチ」 2/17(月)10:00~11:30、30人、無料、ヨガマット又はバスタオル持参、☎1/21~受付、先着順

●江戸川台児童センター ☎7154-3015

●ベビーちゃんの日 1/23(木)10:30~11:30、0~1歳親子10組、☎受付中、先着順

●にこにこサロン ①1/31(金)節分会&誕生会、②2/15(土)絵具あそび、10:30~11:30、乳幼児親子各20組、☎1/17~②1/31~受付、先着順

●森の図書館 ☎7152-3200

月曜(祝日は開館し翌日休館)と月末、蔵書点検のため1/23(木)~27(月)休館

●雑誌の無料配布 2/8(土)10:00~14:00、保存期間を経過した雑誌を市民に配布、1人3冊まで、申込不要

●スクリーンでみる「天使のいる図書館」 2/24(月・振休)13:30~15:30、50人、無料、聴覚障害者向け日本語字幕付き、☎1/23(木)10:00~電話、先着順

①柏の葉健康コース 1/22(水)、オランダ観音・大国主神(7km)、200円

②ポール&ノルディック・ウオーク教室 1/28(火)、500円、ポールレンタル100円

③ウォーキング教室 2/4(火)、7km、200円

●まちの健康研究所 あした ☎7197-7713

ららぽーと柏の葉北館3階、無料

●食ミニ講座「ブロッコリー」 1/14(火)・22(水)14:00~14:30、各10人、当日受付

●健康運動教室体験会(50才以上対象) 1/15(水)13:00~14:30、10人、要申込

●怪我しないカラダづくり 1/20(月)10:30~11:30、10人、要予約

●北部部公民館 ☎7153-0567

●なかよしひろば「リトミック」 1/15(水)10:00~11:30、親子20組、無料、申込不要

●リズムストレッチング 1/15(水)13:00~14:30、20人、無料、申込不要

●みんなでリフレッシュ 1/22(水)13:00~14:30、30人、無料、申込不要

●今から、取り組もう! 防災講座 2/7(金)10:00~12:00、30人、無料、☎1/21(火)9:00~受付、先着順

●楽しい折り紙 2/12(水)13:00~15:00、10人、300円、☎1/21(火)9:00~受付、先着順

●流山の河岸

利根川の東遷により銚子から利根川を遡り、関宿から江戸川を下る江戸への河川のルートができる、利根川の沿岸には物資を積み出す河岸が生まれました。流山にもいくつかの河岸ができましたが、代表的な河岸は加村河岸(現・加6丁目)と流山河岸(現・流山7丁目)です。

加村河岸は船戸藩(のちの田中藩)のうち、中相馬領からの年貢を江戸に送る御用河岸として設置されました。その後、一般の荷物の搬出にも使用されました。

寛保元年(1741)の加村の郷帳には「問屋一人百姓平兵衛 是ハ奥州出羽下野常陸よりの荷物布施村江揚り右村より当村河岸江附送り荷物古来より請来候」とあり、古くから一般の河岸機能を有していたことが分かります。

江戸中期になると利根川の関宿下流に浅瀬ができました。そのため湯水期など船が利根川を遡上できません。そこで、布施河岸で陸揚げしてから馬で加村河岸まで運び、江戸に送りました。下野からの荷は鬼怒川が利用されたのでしよう。

河岸ができるのと船頭や荷積み人足が集まります。その人たちの生活を支える人たちが、大工、船大工、屋根屋、桶屋、木挽、畳屋、酒屋、豆腐屋、衣類など商工業の人たちも集ま

り、集落を形成しました。一方、流山河岸は幕府直轄領(代官支配)からあがる年貢米の輸送河岸として誕生しました。こちらの河岸にも働く人々が集まりますから集落ができ、そして、北の加村河岸と南の流山河岸を繋ぐように集落は発展して現在の流山本町を形成していききました。その後、広小路と呼ばれる加村から根郷周辺は商業の町として、根郷から宿にいたる地域には1600年の末頃から醸造業が生まれました。

文化年間になると、秋元家と堀切家がみりんを開発して江戸で販売しました。みりんは鮮度が命ですから、1日で江戸に送ることのできた流山のみりんは好評でした。両家は自前の河岸(天晴河岸・万上河岸)を有して江戸の需要に応えました。

このほか、薪、炭などの搬出河岸として中野久木河岸があったとされますが、常設の河岸ではなく、渡し場を利用したものと考えられます。河岸や渡し場は河川の変化などで若干の変化はありましたが、多くは同居していたと考えられます。

お茶の祭典 ティーフェス



問同実行委員会 info@teafes-k.com 予約先



1月17日(金)~19日(日)10時~18時(初日11時)、ららぽーと柏の葉2階クリスタルコートで「お茶の祭典・ティーフェス」が開催されます(入場無料)。

「柏の葉で初開催します。お茶を楽しんでいただけたら」と同実行委員。当日、各店舗で試飲ができる「テイティングラリー」や、お茶の美味しい淹れ方、生産者とテイインストラクターによる講座なども開催されます(要予約、有料)。



閉店後は夫婦でのんびり暮らすそうです

江戸川台駅改札横の「修理工房江戸川台店」が1月20日をもって閉店します。店主の村上榮一さん(76歳)は秋田の夜間高校を卒業し、集団就職で都内のクリーニング会社に就職。その後、手先の器用さが認められ、百貨店で靴のメンテナンスを任せられるなど経験を重ね、結婚後に独立しました。同店は平成7年に開業し、



気さくな人柄の村上さん

約30年間、街と共に歩んで来ました。「地域の方には大変お世話になりました。最後の日まで材料がある限り直します」と村上さん。現在、革靴や靴紐などの在庫一掃セールを開催中。閉店を聞きつけて常連客がまとめて修理の依頼に来たり、手紙を持って来たりと、最後まで賑わいそうです。☎9時~19時(日・祝日は17時迄)、水曜日休。☎7153-9692

江戸川台駅の顔 惜しまれつつ閉店へ 修理工房江戸川台店

中村農園 果季の樹 いちごの販売はじまりました



流山おおたかの森駅から車で約5分、おおくろの森小学校前の中村農園「果季の樹」で「ベリーポップはるひ」は、12月中旬よりいちごの直売がスタート。土作りにこだわり、苗から育てている同園のいちごは、リピーターも多く、「とちおとめ」、「紅ほっぺ」、「おいCベリー」、「よつばし」、「チーベリー」の5種類に加え、今年からは、特に甘味が強い「ベリーポップはるひ」も販売(各850円・販売品種は変動あり)。「昨年の春から秋にかけて気温が高く、試行錯誤でした。いちごの成長と味を心配していましたが、今シーズン順調に採れているので、ぜひご賞味ください」と中村さん。

いちご販売について(完売次第終了)

- 当日 9時から販売。整理券は9時前から配布
- 事前予約 前日18時までに電話受付。受取りは翌日9時30分以降午前中
- 発送 1箱2パックより、全国可。受付順・発送は2月まで

☎080-3356-1115



わがまちふるさと再発見!

37 江戸時代12 江戸川と流山3 案内役 田村哲三

流山の河岸

利根川の東遷により銚子から利根川を遡り、関宿から江戸川を下る江戸への河川のルートができる、利根川の沿岸には物資を積み出す河岸が生まれました。流山にもいくつかの河岸ができましたが、代表的な河岸は加村河岸(現・加6丁目)と流山河岸(現・流山7丁目)です。

加村河岸は船戸藩(のちの田中藩)のうち、中相馬領からの年貢を江戸に送る御用河岸として設置されました。その後、一般の荷物の搬出にも使用されました。

寛保元年(1741)の加村の郷帳には「問屋一人百姓平兵衛 是ハ奥州出羽下野常陸よりの荷物布施村江揚り右村より当村河岸江附送り荷物古来より請来候」とあり、古くから一般の河岸機能を有していたことが分かります。

江戸中期になると利根川の関宿下流に浅瀬ができました。そのため湯水期など船が利根川を遡上できません。そこで、布施河岸で陸揚げしてから馬で加村河岸まで運び、江戸に送りました。下野からの荷は鬼怒川が利用されたのでしよう。

河岸ができるのと船頭や荷積み人足が集まります。その人たちの生活を支える人たちが、大工、船大工、屋根屋、桶屋、木挽、畳屋、酒屋、豆腐屋、衣類など商工業の人たちも集ま

り、集落を形成しました。一方、流山河岸は幕府直轄領(代官支配)からあがる年貢米の輸送河岸として誕生しました。こちらの河岸にも働く人々が集まりますから集落ができ、そして、北の加村河岸と南の流山河岸を繋ぐように集落は発展して現在の流山本町を形成していききました。その後、広小路と呼ばれる加村から根郷周辺は商業の町として、根郷から宿にいたる地域には1600年の末頃から醸造業が生まれました。

文化年間になると、秋元家と堀切家がみりんを開発して江戸で販売しました。みりんは鮮度が命ですから、1日で江戸に送ることのできた流山のみりんは好評でした。両家は自前の河岸(天晴河岸・万上河岸)を有して江戸の需要に応えました。

このほか、薪、炭などの搬出河岸として中野久木河岸があったとされますが、常設の河岸ではなく、渡し場を利用したものと考えられます。河岸や渡し場は河川の変化などで若干の変化はありましたが、多くは同居していたと考えられます。

歌川広重「墨田河橋場の渡かわら庵(キャンオン クリエイティブパークより)

